

3-3. 市貝町（栃木県芳賀郡市貝町）

(1) アドバイザー派遣申請の背景

●地域の概要

市貝町は、人口は 12,236 人、東西 9.9km、南北 15.6km の長方形をしており、総面積 6,424ha で県都宇都宮から東へ約 24km に位置し、東は茂木町、西は芳賀町、南は真岡市、益子町、北は那須烏山市の 2 市 3 町に接している。基幹産業は農業。年間平均気温は 12.7℃だが、最低気温は-10.9℃、最高気温は 36.0℃という内陸型の気候である。年間降雨量は 1,282.0mm 台、年間を通じての降雨分散は不均一で、遅霜や雹害など農作物の被害が比較的多い地域である。市貝町およびその周辺は、環境省レッドリスト（絶滅危惧Ⅱ類）タカ科の「サシバ」の生息密度が高い地域である。

●アドバイザー派遣申請の背景・これまでの取り組み

里山の景観を残した自然豊かな市貝町では、環境を利用した農業が現在も営まれている。関東平野と丘陵地の境に位置し、谷津田と呼ばれる従来からの水田が特徴的だが、大規模な機械化が難しく、生産性において厳しい状況となっている。また市貝町内の商業は、買物が周辺都市部の郊外型大型施設に流失し、中心市商店街の形成が困難となっている。

平成 23 年に起きた東日本大震災により、市貝町内にも大きな被害を受け町民の生活に打撃があり、25 年 9 月に中学校施設と 12 月に公共温泉施設の復旧ができた。平成 18 年から計画されていた道の駅事業も、震災の影響により大幅に遅れ、本年 4 月に道の駅「サシバの里いちかい」としてオープン予定としている。農産物の直売や加工品を主体とし、地域の里山景観を活かした自然観察や体験観光ができる道の駅として内容の充実を目指している。

市貝町の 25 年度事業として「サシバが舞う豊かな里地里山環境を基盤に、環境と経済が両立するまち」という基本構想を掲げ、市貝町を「サシバの里」として PR することで、農産物の 6 次産業化を推進したいと考えている。その一環として 26 年 4 月にオープンする道の駅には「まちおこしセンター」を置いて、観光交流の拠点にする予定としているが、町民からは市貝町に通年で観光客が来ることはなく、仮に観光客が来たとしても一般住民にとっての関わりは薄いものと考えている。

そこで、エコツーリズムのアドバイザーに来て頂き、同じように過疎化に悩む他の地域の事例を聞き、エコツーリズムの視点を取り入れたまちおこしが可能かどうかを地域住民と一緒に考えた。さらにアドバイザーには町を視察していただいた上で、地域資源探しと魅力ある商品化の手法を詳しく教えて頂きたいとした。



(2) アドバイザー派遣実施の概要

日 時	平成 26 年 1 月 8 日（水）～平成 26 年 1 月 10 日（金）
場 所	<p>【1 日目】 講師打合せ：栃木県芳賀郡市貝町庁舎内 講演会場：市貝町庁舎多目的ホール 視察場所：道の駅「サシバの里いちかい」予定地（市貝町）、道の駅「はが」（芳賀町）、道の駅「もてぎ」（茂木町）</p> <p>【2 日目】 視察場所：市貝町内 市塙駅、山根城跡（記念樹の森）、村上天跡（観音山梅の里）、永徳寺観音堂、横穴、芝ざくら公園、水晶湖、杉山地区いちご農家、武者絵の里、前野内・諏訪塚古墳、多田羅沼、日枝・熊野神社、伊許山キャンプ場、大久保・弁天池、妙哲庵桂蔵寺（六角堂）、入野家住宅</p> <p>【3 日目】 町長対談：市貝町庁舎内副町長室 視察場所：藤平武家屋敷（心身統一合気道会本部施設）</p>
アドバイザー	アイ・エス・ケー合同会社 代表 渡邊 法子 氏
参加者	<p><講演会参加者> 市貝町町長、市貝町企画振興課、農林課、栃木県産業労働部観光部、観音山梅の里づくり協議会、芳那の水晶湖ふれあいの郷協議会、JA はが野市貝町地区直売会、栃木県内の一般参加者 計 75 名</p>
スケジュール・方法	<p>【1 日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視察 道の駅「サシバの里いちかい」予定地、道の駅「はが」、道の駅「もてぎ」 ・打合せ（企画振興課長、農林課長） ・講演会「地域資源を活かした観光まちづくり」 エコツーリズムの基礎的な知識、他の地域の実例を紹介 <p>【2 日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視察 市塙駅、山根城跡（記念樹の森）、村上天跡（観音山梅の里）、永徳寺観音堂、横穴、芝ざくら公園、水晶湖、杉山地区いちご農家、武者絵の里、前野内・諏訪塚古墳、多田羅沼、日枝・熊野神社、伊許山キャンプ場、大久保・弁天池、妙哲庵桂蔵寺（六角堂）、入野家住宅 <p>【3 日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市貝町議会議員と対談 ・視察 市貝町続谷地区、藤平武家屋敷（心身統一合気道会本部施設） ・市貝町長対談

(3) アドバイスの内容

●講義の概略

観光が身近なものになり、従来型の観光ではあきたらない人たちのニーズがエコツーリズムにシフトしつつある。これは世界的な潮流だ。法律の改正や整備も行われて追風となり、新しい観光を商品化してまちおこしを成功させた市町村も増えている。「新しい観光」の目的は異文化交流。その地域の地形、歴史や伝統文化や風俗習慣を貴重な観光資源ととらえる。その資源を魅力ある商品にするために、住民が主体となってツアーを企画し、住民自らがツアーガイドをする。住民はガイド料を収入にできるためメリットを実感できる上、人と人の交流を通して郷土愛が生まれ、生きがいがづくりにつながる。エコツーリズムには住民主体で取り組むことが望ましいが、その活動の「核」となるしくみが必要となる。市貝町の道の駅はその「核」の機能を担えるだろう。



●質疑応答の概略

Q1：市貝町の地域資源として有望なものは？市貝町の弱みは？弱みを強みに変えるにはどうしたらよいか？

A1：サシバの生息する豊かな自然は有望な資源となる。しかしエコツーリズムの視点で考えると、年間を通して売れる商品が必要なので自然のものだけでは不十分。地名、郷土史など歴史的な掘り起こし作業が必要になるだろう。市貝町の町民の意識がまだ十分ではなく、当面は人づくりが課題になるだろう。

Q2：リーダーシップをとるのは住民か町か？

A2：リーダーシップをとるのは企業でも、商工会でも、行政でも住民でも NPO でも良いだろう。その町の実情を反映させるべき。

Q3：鬼怒川では地域リーダーの育成事業を行っている。何から始めて良いからわからない時は、ガイド養成から始めるべきだと理解したが。

A3：その通りだと思う。ガイド養成は「自分の地域を語れる人、自分の地域に感動する人」を増やす活動なので、出来るだけ多くの住民を集めて研修会や交流会を開くことをすすめる。その研修会用のテキストづくりも初期の段階でとりくむべきだろう。

Q4：農業体験を商品化したいが、成功の秘訣を教えて欲しい。

A4：農業体験は、収穫体験に限定してしまうと受け入れる農家の負担が大きくなる。収穫時期は見学だけ、収穫以外の草むしりや肥料づくりなどの体験ツアーはやり方次第で商品化可能。

Q5：エコツーの担い手として NPO を作る事も考えられるが、市貝町は NPO が 1 つしかない。NPO の運営に関するアドバイスが欲しい。

A5：補助金だのみの NPO 運営は限界がある。活動の目的をはっきりさせて賛同者を集め、その賛同者から会費を集めることで自立した活動が可能となる。

Q6：これまでのアドバイザーとしての活動で一番大変だったことは？どうやって解決したのか？

A6：活動主体は地域の住民だということが理解してもらえないことが多々あった。既得権益、利害関係の調整など難しい案件には当事者だけでは解決が難しい。利害の無い住民、特に若者や女性を対話に巻き込み、肩書きや年齢をぬきにした対話を重ねることでよりよい解決に向かう。



記念樹の森



三叉路の地蔵尊

●市貝町内を視察後の町長との会談概略

市貝町はエコツーリズムの素材は十分あるが、すぐに商品となりうるものは武者絵資料館や民話の語り部などに限られる。住民が主体となる素材探し、素材磨きが必要となる。その際に「受け狙い」の素材だけを集めると、素材磨きに限界が来る。本当に輝く素材を探すためには、歴史を掘り下げる必要がある。栃木県の文化財ボランティア協議会や元教員などを招いて、市貝町の歴史を掘り下げ、歴史に関するテキストを作り、ガイド養成講座をおこなうことを提言する。養成講座は「大人のふるさと学級」などというネーミングで平日の昼間に開催し、ガイド養成講座であることをあまり知らせずに受講生を広く募集すると、多くの住民を巻き込むことができる（土俵を広げる）だろう。



(4) アドバイザー派遣実施の効果

●参加者や関係者に与えた効果

これまでも町の関係者の間で「エコツーリズム」という文言は使われてきたが、その定義が統一されていないためか、エコツーリズムの有用性が理解できない人が多かったが、渡邊アドバイザーの解説で理解が深まり、推進活動がやりやすくなった。

更に、これまでのイベントを中心とした村おこし活動が、何故投資に見合うような効果をうまなかったのかわかった。参加者の多くは、エコツーリズムは敷居が低いと感じた様子で、エコツーリズムならまちづくり活動に加わりたいという感想がよせられた。

これまであまりみられなかった、女性のまちづくりへの参加を促そうという感想もよせられた。

●今後の期待される効果

- ・人材育成事業として町民の多くのかたへ地域の良さを知らせる
- ・来訪者へ町民自ら地域を案内することにより地域の良さを再認識する
- ・村おこし推進協議会の活動の面での拡大
- ・活動の後継者の育成と地域の文化を伝承する
- ・町民が地域の環境保全の主役である

●今後の取り組み

26年度の市貝町企画振興課商工観光係で予算請求を計画し、エコツーリズムの「観光まちづくり事業」としての(1)人材づくり (2)テキスト作成 (3)マップ作成の事業提案をおこなうことを予定。

(5) アドバイザー派遣を実施して (地域からの声)

●参考となった事項

住民参加のしくみづくり、その仕掛け方

●その他感想

渡邊アドバイザーが過去に活動された地域の商品がとても魅力的で、実際に行って体験したいと思った参加者も多かったようである。魅力的な地域は、市貝町同様の問題を抱えていたというお話は、市貝町でもエコツーリズムができるかもしれないという希望につながった。

先生のアドバイスはとてもわかりやすかったが、中にはどうしても従来型の観光のイメージから抜けられない参加者もいた。そういった参加者のために、渡邊アドバイザーが印象的な言葉を繰り返される姿を見て、住民の意識改革のテクニックを勉強させていただいた。渡邊アドバイザーからの提案を受けて、市貝町企画振興課商工観光係では早速、26年度事業申請を行う予定である。

(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

アイ・エス・ケー合同会社 代表 渡邊 法子 氏

●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状と課題

26年4月の「道の駅」オープンに合わせて、市貝町全体で地域交流・観光振興の仕組み作りをおこなうという方向性のもと、エコツーリズム推進の取組みがはじめられたところであり、胎動期といえると思います。

その一方で市貝町には絶滅危惧種のタカ、サシバが生息しており「サシバの里」としての環境保全をおこないつつ観光を含めた地域振興をおこなう方向性は見出され推進されている現状です。

課題としては以下の点があげられます。

- 1、道の駅の活用
- 2、里山保全と「サシバの里」をテーマに地域振興をおこなう推進方法
- 3、外部観光有識者等のアドバイスによる地域資源の発掘および活用方法
- 4、エコツーリズム（着地型）商品の企画、販売の仕組み作り
- 5、効果的な情報発信の仕組み作り
- 6、人材育成の仕組み作り
- 7、事業の継続化

●特に魅力を感じた地域の自然観光資源

市貝町は栃木県の南東部に位置し南西部は関東平野の北端であり東北部は八溝山系に属しており、小貝川が町の中央を南北に走り桜川が東武山間地を南流して小貝川に合流しています。丘陵が連なる里地里山の風景、自然環境には約2億年前の地層から現代までを見ることができ、海底で堆積した砂岩や粘板岩も見ることができるという地域です。

特に魅力を感じた自然観光資源は以下のとおりです。

1. 古墳群・・・縄文時代から地域の環境を活かし人々が暮らしていたことの証し
2. 山城跡・・・当地の地の利を活かし濠や土塁を巡らした城跡が点在する歴史資源
3. 丘陵地・・・サシバの棲む谷津田が入り込む里山環境の四季、動植物
4. 湿地帯・・・多田羅沼のコナラ林と睡蓮、周辺の古墳群
5. 蛍・・・蛍の生息の研究地域としてこれまで蓄積された知見と観察会実施
6. 古民家・・・旧芦野家陣屋跡（藤平家）；巨木、入野家住宅にみる郷土史

●アドバイス（講義等）の概要

- 1、人材育成事業について
- 2、地域の人によるエコツアーの実施環境づくり
 - ー1 地域で取り組む理解と協力
 - ・地域全体で事業の継続化を
 - ・担い手づくりと組織化
- 3、エコツーリズム商品を流通させるためのツアーデスクの設置
 - ・事例紹介
 - ・事業の継続化
- 4、エコツアーメニューの種類と特徴

5、メニュー別組織体制の強化

6、具体的な実施方法

7、実施する際の注意点 等

エコツーリズム胎動期の市貝町の現状と照らし合わせながら、まずは人材育成事業と市貝町におけるエコツーリズム実施環境づくりに重点を置きアドバイスをいたしました。

●全体構想への取組状況・意向について

すでに市貝町として「サシバの里」基本構想の原案を策定中であり、本事業における全体構想の取組に準じて進められているものと位置づけられます。

特にこれまで保護措置が講じられていなかった「サシバ」「多田羅沼湿原地域」など貴重な資源については、保全しながら活用できるよう、市貝町におけるエコツーリズム推進全体構想は策定がなされるべきものと考えます。

●地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

市貝町はサシバを代表とする動植物の生息地としての丘陵・谷津田等の里地里山の自然環境資源に非常に恵まれています。縄文時代から人々が地域環境資源を活かし暮らしてきたことが地質、古墳、山城跡などの歴史資源からよくうかがい知ることのできる素晴らしい地域です。

サシバや多田羅沼湿原は保護への配慮がまずは課題ですが、適切な利用の方法を模索し定めながら推進できますよう、まず市貝町地域の中に地域全体で取り組む理解と協力を得るために、地域内での理解を深め、次世代に郷土愛を育み、担い手を育成するためにも、人づくり事業から着手し、さらに地域の魅力を活かしたエコツーリズム商品化をめざし、今後持続して事業が継続できますよう組織化も視野に推進していただきたいと思えます。